

令和6年度
浜田地区意見交換会
「教えてください！備前堀のいいところ」
報告書



水戸市都市計画課

<目次>

1 はじめに……………	1
(1)浜田地区意見交換会の開催目的	
(2)事業概要	
(3)参加者構成	
2 浜田地区意見交換会の概要……………	3
(1)プログラム	
(2)調査テーマ	
(3)ワークショップ	
3 ワークショップの議論内容……………	5
(1)テーマ①:散歩・サイクリング	
(2)テーマ②:くつろぎ・親水	
(3)テーマ③:イベント・産業	
4 アンケート結果……………	10
5 まとめと今後の展開……………	11
(1)参加者の意向	
(2)今後の展開	
6 付録(当日の様子)……………	12

1 はじめに

(1) 浜田地区意見交換会の開催目的

備前堀周辺地区においては、空地・空き家の増加や地域住民の高齢化、整備時の質の高い材料による道路等の修繕が困難になるなど、平成 14 年の備前堀沿道地区の都市景観重点地区指定時と状況が変化しており、新たなまちづくりのあり方を検討する必要があります。

新たなまちづくりのあり方を検討するにあたり、大学生による外からの目線や若者目線の意見、日常をよく知っている備前堀周辺の住民やまちづくり関係者の意見を聴くとともに、今後のまちのあり方を話し合うため、浜田地区意見交換会(教えてください！備前堀のいいところ)を開催しました。

今回の取組を通して、今後のまちづくりの主体となり得る若い世代や、地域住民などと一緒に、まちのあり方を検討し、今後のまちづくりの方針づくりに反映させることを目的としました。

(2) 事業概要

○主催

- ・水戸市
- ・備前堀景観推進協議会

○協力

- ・茨城大学工学部都市システム工学科

○開催日時及び場所

- ・日時: 令和6年 10 月 24 日(木) 14~16 時
- ・場所: 竹隈市民センター和室(水戸市柳町 2-5-8)

○募集チラシ内容等

- ・タイトル: 浜田地区意見交換会~教えてください！備前堀のいいところ~
- ・コピー: 地域みなさんにとって愛着のある「備前堀」。備前堀沿いを、ふらっと行って散歩したり、休んだりでき、快適に憩える場所にしていくために何が必要か、みなさんで一緒に考えてみませんか？

○募集対象及び定員

- ・対象: 備前堀周辺まちづくりに興味のある方
- ・定員: 先着 20 名

○参加者募集方法

- チラシを作成し、次の方法で参加者を募集
- ・備前堀景観推進協議会会員(58 名)への郵送
- ・備前堀景観推進協議会役員からの声掛け
- ・水戸商工会議所へのご案内
- ・まちづくり関係者への声掛け 等



浜田地区意見交換会
教えてください！
備前堀のいいところ

参加者募集!!

地域みなさんにとって愛着のある「備前堀」。
備前堀沿いを、ふらっと行って散歩したり、休んだりでき、快適に憩える場所にしていくために何が必要か、みなさんで一緒に考えてみませんか？

日時
令和6年10月24日(木)
14時~16時

定員
先着20名
※事前に主催者への申し込みが必要です。
※備前堀沿道まちづくりに興味のある方

プログラム

1. 学生によるリサーチ(調査結果)発表 <約45分>
茨城大学(工学部都市システム工学科)の学生による備前堀の特徴や魅力についてのリサーチ発表

2. ワークショップ <約50分>
備前堀の日常・ここが好き・困りごとなどみなさんと気軽に話し合おう

場所
竹隈市民センター 和室
(水戸市柳町2-5-8)

問い合わせ・申し込み先
水戸市役所 都市計画課 景観室
TEL:029-232-9206
担当:小島・磯前・権哉

参加者全員に
「みと景観30選」
クリアファイル
プレゼント

注意事項等
●参加費は無料です。竹隈市民センターへの交通費等は各自ご負担ください。
●当日は筆記用具や飲み物等をご持参ください。
●申し込み時に収集した個人情報、本イベントの運営に必要な範囲でのみ使用します。
●イベント中の写真を、市のホームページ等の媒体で使用する場合があります。

備前堀景観推進協議会・水戸市 共催

募集チラシ

(3)参加者構成

意見交換会には、以下の44名が参加しました。

ア 公募による一般参加者		計 13名
・ 備前堀景観推進協議会会員		4名
・ 備前堀周辺住民		5名
・ まちづくり関係者等		4名
イ 茨城大学(連携協力先)		計 25名
・ 茨城大学工学部都市システム工学科教員 (久野靖広准教授、一ノ瀬彩助教)		2名
・ 茨城大学工学部都市システム工学科学生(備前堀をテーマとして研究) (学部3年生 19名、修士1年生 4名)		23名
ウ 水戸市職員		計 6名
・ 都市計画課職員		5名
・ 公園緑地課職員		1名
合計 44名		

2 浜田地区意見交換会の概要

(1) プログラム

まず、茨城大学3年生がリサーチ(調査研究)の成果を発表し、そのあと、グループごとに分かれてワークショップを行いました。(タイムテーブル参照)

浜田地区意見交換会	
教えてください! 備前堀のいいところ	
タイムテーブル 令和6年10月24日(木)	
時間	ワーク
14:00~	開会 あいさつ (水戸市:須藤参事兼都市計画課長、茨城大学:久野准教授、一ノ瀬助教) 参加者紹介(茨城大学都市システム工学科学生、参加者、水戸市職員)
14:10~14:55	茨城大学学生によるリサーチ(調査研究)発表 ・発表 30分 (5分×6班) ・質疑応答 15分
14:55~15:05	休憩
15:05~15:55	ワークショップ (進行:一ノ瀬助教) ・備前堀の日常・ここが好き・困りごとなどを3つのテーマに沿ってお話ししてください。 テーマ① 散歩・サイクリング テーマ② くつろぎ・親水 テーマ③ イベント・産業 ・参加者は、 絵 ごとの順番で、テーマ①から③のテーブルを10分ごとに順に移動してください。 ぶどう れもん りんご ①散歩・サイクリング → ②くつろぎ・親水 → ③イベント・産業 ②くつろぎ・親水 → ③イベント・産業 → ①散歩・サイクリング ③イベント・産業 → ①散歩・サイクリング → ②くつろぎ・親水
~16:00	閉会 あいさつ (水戸市:須藤参事兼都市計画課長)

※時間は進行状況により変更となる可能性があります。

(2) 調査テーマ

茨城大学の3年生が6班に分かれ、各調査テーマに沿って事前に備前堀の調査を行い、その調査研究成果の発表を行いました。

	リサーチ発表
1班【3名】	植栽
2班【3名】	ストリートファニチャー
3班【3名】	舗装
4班【4名】	断面
5班【3名】	立面
6班【3名】	コンテンツ

(3)ワークショップ

受付で飴(ぶどう・れもん・りんご)を選んでもらい、飴の種類ごとにグループに分かれワークショップを行いました。

ワークショップのテーマは、①散歩・サイクリング、②くつろぎ・親水、③イベント・産業の3つとし、一般参加者はそれぞれのテーマごとに10分ずつ意見交換を行いました。

それぞれのテーマで、黄色い付箋に現在の様子、ピンクの付箋に課題、青い付箋に未来に望むことを書き、備前堀周辺の地図に貼りつけながら、意見交換を行いました。

各グループには茨城大学の修士1年生が1名ずつ配置され、ファシリテーターとして進行をサポートし、また、茨城大学の3年生も6～7名ずつ配置され、一般参加者と共に意見交換を行いました。

ワークショップテーマ	学生	参加者
①散歩・サイクリング	1班【植栽】 3班【舗装】	ぶどう(10分) りんご(10分) れもん(10分)
②くつろぎ・親水	2班【トリートファニチャー】 4班【断面】	れもん(10分) ぶどう(10分) りんご(10分)
③イベント・産業	5班【立面】 6班【コンテンツ】	りんご(10分) れもん(10分) ぶどう(10分)

3 ワークショップの議論内容(参加者が付箋に書いた内容)

(1)テーマ①:散歩・サイクリング

場 所	現 在(黄色の付箋)	課 題(ピンク色の付箋)	未 来(青色の付箋)
備前堀	- 堀の中に鳥がとまっている、良い - サイクリング見かけない - ジョギングあまり見ない - 車一方通行 - 歩道が犬の散歩コースになってしまっている - サイクリングはやっている人が少ない - 散歩コースのメインは備前堀周辺が多い(ハミングロードよりも) 備前堀を周回する	- 街灯少ない、暗い - ベビーカー通れない - 斜めになっている橋の案内石が危ない - 縁石が歩行者、自転車にとって危ない - 自転車の人が車道だと危ない - 石置が段差があって歩きづらい - パイプのベンチが座りづらい - 石の歩道は歩きにくい(でこぼこしている) - 備前堀は国交省が絡むから難しい - 犬のフンの放置	- コンビニとか明るい店がほしい - 歩きやすい舗装がいい - 歩道は1つにして太くする? - 桜川に船を浮かべて端まで、船着き場をどうする - ベンチを真っすぐじゃなくてコの字の方が良いんじゃない - イベントのときだけ堀に降りられるようになるといいかも - 歩くメインで整備してほしい - 通年導水 石垣にしたい→お金かかる 小魚、ホタル できるのに - 犬の散歩を減らす? フン持ち帰ってもらいたい? - 歩道の幅を広げてほしい!
七軒町児童公園	- 住民がトイレの管理とかしている - 犬のふん - 丸いベンチのところで話したりしている - 昔は野球できた→水戸市でボール遊び禁止(七軒町児童公園)		- こどもの元気な声をもっと聞きたい - ボール遊びできるようにしたい
裡1丁目児童公園	- 住民のたまり場になっている - 小学生が遊んでいる - 犬会 - 店舗面積小→地元の人たちの憩いの場		
ハミングロードなど	- 散歩はハミングロードで - 黄色い(希望)ハンカチ - ハミングロード ハロウィン(お菓子スタンプ) マラソン - イベント時は小学校の校庭・テント・椅子机を借りている - 駐車場結構使っている、月極が多い - みとチャリの設置 - 小学校の駐車場を借りる - 飲み・スナック 3軒 - 子ども食堂 小学生~大人まで(200円) - 学生のたまり場所が少ない - 駐車 23台分 通り沿い 19時まで	- 水戸駅から遠い→来たい導線がない - 休憩できる場所があるとよい - 間口を狭くしなきゃ(昔の税金対策) - でっかい駐車場が欲しい - 駐車場がない	
桜川	- 桜川の方が走りやすくなっている - ジョギングしやすい サイクリング OK		
不特定		- スマホ見ながらウロウロしている人(全部の道) - 歩きスマホが危ない - 歩きスマホ ※2つあり	- 地続きのサイクリングロード お散歩ロード - ジョギングロードがあると良い?

[illegible]

(2)テーマ②:くつろぎ・親水

場 所	現 在(黄色の付箋)	課 題(ピンク色の付箋)	未 来(青色の付箋)
備前堀	・夕日がきれい ・5月眺めが良い ・水が入っている時期がキレイ ・広いのに何も無い ・桜がキレイ(銷魂橋4つ角) ・観光客、海外の人も来ている ・農業用水は那珂川からパイプで下を通している ・匂いは大丈夫! ・風化で歩きにくい ・昔は水綺麗で泳いだり釣りしたり(40年前くらい) ・ポケットパークは使わない(三又橋近く)	・石が割れてがたがた(堀床が) ・水が汚い ・ベンチが汚い ・イベントがあるときに親水でできれば ・柵が欲しい ・堀の幅が狭くなるため水があふれる ・学生が歩くとときが怖い	・蛭に住んでほしい ・水が通年で流れてほしい(きれいな水が) ・柵に沿ったためるベンチがあるといい ・来年に大谷石タイルの補修 ・夏限定で降りられたら楽しそう ・灯籠流しのときに階段で降りられたらいい ・イベント時に堀に水を入れたい ・話しやすいようにコの字のベンチ ・ベンチ置くら背もたれが欲しい ・景色見ながら歩きたい
ハミングロード			・人が歩く風景にしたい!
七軒町児童公園		・草生えすぎ ・神社が近い+街灯が少ない→怖いから子供が来ない	
裡1丁目児童公園	・掃除している キレイ ・おじいちゃんおばあちゃんの憩いの場		・校庭のような公園がいい
朝日町児童公園		・草生えすぎ	
その他		・使う人があまりいない ・維持管理ができていない(場所不明)	



(3)テーマ③:イベント・産業

場 所	現在(黄色の付箋)	課題(ピンク色の付箋)	未来(青色の付箋)
備前堀	・みゃーづき(猫の雑貨) ・もぐもぐ(ケーキ屋) 新しい イートイン ※周辺 ・ばんざい屋 新しい ※周辺 ・阿波屋染物店 ・紺屋町大谷染物店 ・水戸黒(染め方) ・歴史の散歩道(インバウンド客の見学視察) ・社務所(かまど神社) 人が集まる ・灯籠流し 8月 お盆 ・鯉のぼり 5月	・道路(柳)維持管理 草ぼうぼう (年2回では無理)	
ハミング ロ ー ド など	・伊勢屋(ラーメン) ・シフォンケーキ 人気 新しい 買うだけ ・はみんぐパークみと 子どもを預かる場所 ・だがしや ・スタミナラーメン ・お茶屋さん ・古着屋さん ・居酒屋ある ・おもちゃや だがし ・カフェ、コーヒー 新しい イートイン ・ケーキ屋クローバー ・下市タウンフェス 3月 ・だるま市 1月 ・小学生のマラソン 11月 ・ハロウィン(小学校) ・小学生のつくった写真 ペットボトルの飾り 黄色いハンカチ ・ジャスコで集まる	・商業地→住宅地になっちゃう ・郊外に大きな店ができちゃった→原因 大型店舗 ・商店が減って住宅が増えている 一般住宅は投資しない 不公平→会員のみが負担している→1億投資 すごいうるおい	・新規の若い人向け店舗 ・おみやげ 人が留まれる ・水戸黄門まつり(今はやっていない) ・イベント等で使える駐車場
七軒町児童公園		・昔はゲートボールをやってた 草ボーボーでできない 今も人はそんなにいない	
裡1丁目児童公園	・公園の整備がされている		
朝日町児童公園		・草ボーボー	
不特定	・ありがさん 11月 11日 神社 大きい 有名 今はそんなに ・吉田神社祭 10月 大きい 一番かも ・ぜにや神社 吉田 盆踊り あんどん祭り	・コインパーキング 公共の無料駐車場無い! ・後継者不足 子供会・PTA も減っている→コミュニティがなくなっている ・集まる場所に風情が欲しい ・コミュニティ不足 ・空き家・空き店 →住宅ができる ・後継者不足 ・駐車場が少ない 住民に会いに来た人 買い物に似た人向け	・朝市マルシェ ・居酒屋 ・コーヒー屋 ・郷土資料館 職人町であることを分かってもらう ・神社巡りができたらいい



4 アンケート結果(一般参加者13名のうち12名から回答を得た。※ヒアリング含む)

	回答数
1 本日の浜田地区意見交換会はいかがでしたか。	
① 良かった	12
② 普通	0
③ 良くなかった	0
(選んだ理由) ・学生の発表がよかった。学生が参加したことが良かった。 ・学生の発表内容が参加者にとって基礎知識となりワークショップがうまく進んだ。 ・ハミングロード513を含めたまちづくりは重要であるため、備前堀だけでなく商店街も含めた範囲での議論になってよかった。 ・地域のひとと学生さんとのやりとりが参考になった。	
2 今後もこのような催しに参加したいですか。	
① はい	12
② いいえ	0
③ その他	0
3 どのような催しに参加したいですか。(いくつでも)	
① 今日のようなワークショップ	11
② 備前堀周辺のまち歩きイベント	4
③ 地域の歴史などを知るセミナー	5
④ その他	0
4 備前堀周辺がどのようなまちになると良いと思いますか。(一部抜粋)	
・歴史を活かしたまちづくり。 ・今は歩きづらいため、散策しやすい場所になると良い。 ・地元の人が暮らしやすいまちになると良い。 ・このまちをどうしていくかのビジョンが必要。そこが明確なら若い人も入ってくる。 ・まちの方向性がしっかりしていれば、商店街に一般住宅が入ってしまうことはない。 ・まちの歴史や地域を知るような催しがあっても良いと思う。 ・地元の方も観光の方も集まり足をとめられる場所になる。 ・水戸市のひとつのスポットとなり、そこからハミングロードへ人も流れ、にぎわう下市に戻ってほしい。 ・新しい空き家を活用したお店や人が外にいる気配が生まれていくと良いと思う。 ・住んでいる人も外から来た人もまじり合うようなあたたかい場所。 ・暮らしやすいまちになると良い。環境の整備(トイレ・フェンス等) ・来訪者がとめられる広い駐車場がある。 ・三の丸のような統一した塀で景観が揃ったまちなみ。 ・ここを知らない人が息抜きに来てくれるような場所になると良い。 ・備前堀とハミングロードをタイアップした歴史と文化遺産の住み良いまち。(400年の歴史) ・弘道館、大手門、坂下門、備前堀を迂回する歴史をたどる散策道路の整備。観光マップの作成。 ・観光地ではなく、暮らしやすさ重視のまち。そのために道を直してほしい。大谷石は不要。 ・遠方からくる方向けの観光地は偕楽園などに任せるべき。 ・まちに若い人が入ると良いと思う。 ・城下町らしい歴史を感じられるまちづくりを希望する。	

5 まとめと今後の展開

(1)参加者の意向

浜田地区意見交換会のアンケート結果では、回答した参加者全員が内容を「良かった」と評価し、今後も参加したいという意向がわかりました。また、「備前堀周辺地区がどのようなまちになると良いか」という質問に対して、多様な意見が寄せられました。

参加者の多くは、「歩きやすく暮らしやすい環境」や「歴史を活かしたまちづくり」を望んでおり、まちのビジョンや方向性が明確であれば、若い人や新たな住民も集まるのではないかと考えている参加者もいました。また、地域に来訪した人と地元住民が交流できる「あたたかい場所」や、歴史的景観を重視した統一感あるまちなみの維持などが求められています。

全体的な傾向として、観光地化するような方向ではなく、地域の住みやすさや魅力を高めるべきという意見が多く見られました。

(2)今後の展開

備前堀周辺地区では、空地や空き家の増加、住民の高齢化、そして景観整備における道路などの修繕にかかる費用などの課題が浮かび上がっており、平成 14 年に備前堀沿道地区を都市景観重点地区に指定した当時とは状況が変化しています。そのため、今後は現状を踏まえた新たなまちづくりのあり方を検討する必要があります。

しかし、今後のまちづくりの方向性を検討するには、今回の1回の意見交換会の開催では、地域住民の意見の把握は十分とは言えません。

そのため、引き続き、地域住民の声を聞く機会を設けることが重要です。継続的な意見交換会などの実施を通じて、より多様な住民の意見を反映し、住民主体のまちづくりを育てるための基盤を整えることが必要と考えられます。

また、今回は茨城大学工学部都市システム工学科と連携することで、外の目線や若い世代の目線から意見を得ることができました。今後も、この地区に関心や興味を持つ多様な主体との連携した取組が効果的と考えられます。

6 付録(当日の様子)



学生が現地調査に基づき、備前堀周辺の特徴や魅力、課題についてグループごとテーマに分かれて、発表。



学生による発表後は、発表内容も参考にしながら、「散歩・サイクリング」、「くつろぎ・親水」、「イベント・産業」の3つのテーマで、3グループに分かれて話し合い。参加者は3テーマをすべて回る形。都市計画課、公園緑地課職員も話し合いをサポート。



地域のまちづくり関係者や住民等が同じテーブルで横に並んで話し合う風景。



多様な世代が備前堀周辺の魅力や課題について熱心に議論。



最後に、テーマごとに、話し合いで出た意見や提案を大学生が発表。



終了後に参加者全員で集合写真。若い世代からご高齢の方まで様々な世代が集まりました。